

## 所沢市議会政策研究審議会会議記録（概要）

令和4年1月17日（月）

開 会 （午前9時30分）

### 1 開 会

石本副議長

ただいまから、所沢市議会政策研究審議会を開会します。

皆様、本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。  
ございます。

### 2 議長あいさつ

大館議長

本日は、公私ともにご多忙のところ、所沢市議会政策研究審議会にお集まりいただき誠にありがとうございます。開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年11月8日に1回目の政策研究審議会を開催し、私から1件の諮問をさせていただきました。本日は、その諮問に対する答申をいただき、また、議員との意見交換があると伺っているところでございます。

議会改革に関する特別委員会での数多くの協議を経て、これまでに積み重ねてきた議会改革への取組を反映させた、今回の議会基本条例の一部改正案でございますが、本審議会の御審議を通じて、より良いものに高めていただくことにより、さらなる議会機能の強化を図るためにも、委員の皆様のお力添えをいただきたいと存じます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

石本副議長

次に、本日は過半数の委員のご出席をいただいておりますので、審議会条例第6条第2項の規定により、この会議は成立しています。

本日の配布物について確認させていただきます。本日の次第、資料についてお手元のパソコン、iPadに保存させていただいております。それでは、ここからの議事進行につきましては、本審議会条例第6条第1項の規定に基づきまして、扇原会長にお願いいたします。

### 3 議 事

#### (1) 答申書の提出について

扇原会長

昨年11月8日の審議会におきまして、大館議長より1件の諮問書をいただきました。委員の皆さんから、前回の審議会での諮問事項1件についてのお考え、ご意見をいただきました。それらをもとに、私のほうで整理しまとめたものを、本日お手元に答申書案という形でお示ししています。本日は、この案をもとに御審議をお願いしたいと思います。答申書案につきましていかがでしょうか。

廣瀬委員

前回の政策研究審議会での議論と意見交換した趣旨を丁寧に汲み上げ、文章にしているため、こちらで答申書案として確定していただければよろしいと思います。

扇原会長

各委員からご承認いただいたということで、答申書(案)の(案)を取りました答申書をご準備する間、次の議題に移ります。

(2) 議員との意見交換

扇原会長

私から今回は意見交換のテーマとして「高等教育機関と連携した市の取組の可能性について」をご提案させていただきました。

まず、本テーマを提案したことについてご説明させていただきます。現在もコロナウイルスの影響で様々なところで混乱が生じているところですが、併せてDXの推進ということが国や各自治体に求められています。各自治体の先進事例として、高等教育機関と連携した自治体の魅力度アップや、助成金を活用した実証実験が展開されています。例えば、東広島市は広島大学と連携して、地域課題の解決を目的に、科学技術イノベーションの社会実装と人材育成に取り組み、職員の人事交流なども行っています。所沢市内にはいくつか高等教育機関がありますし、社会課題に応じて都内に限らず国内や海外大学との連携も考えられるかと思えます。市の政策課題、あるいは市役所職員の能力開発、市議会議員のシンクタンク機能など様々な連携の仕方が考えられるかと思えますが、ご出席の皆様から高等教育機関と連携した市の取組の可能性についてご意見をいただければと思っています。

各委員の皆さんからご意見をいただき、その後、議員の皆さんの思いや印象について意見交換させていただきたいと思えます。

角田委員

高等教育機関ですが、防衛医科大学校は少々特殊であり、通常であれば修士、博士を修得するとか、大学院生を呼びたいところですが、防衛省の自衛隊員から大学院生を採るので、そういう意味ではいわゆる大学院教育に参画するのは非常に難しいです。例えば専門医制度というもので社会学的なものを学ぼうというシステムを作ったり、大学院の講義で、今までの日本の大学院は形式的な講義に留まっていたましたが、国際認証の関係上、きちんと講義をやりなさいとなっているので、そういうところでオブザーバーとして参加していただくのは可能かと思います。

また、私もやっていますが、看護師の方で、一段上の看護師を目指すという方に疫学的なものや公衆衛生学的なもので、例えばマスクが有効かどうかというエビデンスはどこで見るとかというところ、疫学的な研究を見て程度を知るところを他の活動に生かすというのはできると思いますので、そういう意味では教育機関や市の保険担当との簡単な交流会をしてもよいのかなと考えています。ご提案いただければできる範囲で交流していきたいと思います。

西久保委員

市議会が高等教育機関と連携を図ることは大変に有意義なことだと思います。市民の皆さんの負託にこたえるためにも、市議会の様々な活動・方策を通じて政策実現につなげることが大切と考えます。その一つの方策として、市議会と大学の機関や学生たちとのその連携した活動の成果が市民

のための政策の実現の一助となればと思います。安全で安心な環境にやさしい持続可能な社会の実現を目指す意味からも市議会の大変貴重な活動だと思います。実現の可能性を探っていただければと思います。

廣瀬委員

所沢市は人口34万人、首都圏近郊にある住宅都市です。そこに有力な高等教育機関を複数市内に抱えているというのは大変特徴的だと思います。世の中に様々なタイプの大学の立地というのがありますが、例えば東京23区、特にその中心に位置する千代田区のような地域には比較的多数の大学がありますが、そういう大都市圏内の郊外という場所にあって有力な高等教育機関が複数存在する自治体は少数です。多くの、特に小規模な自治体では、高等教育機関が自治体の地域内にないことが普通です。そういう地域では、そこに立地していない大学とも戦略的に連携して、自分たちの抱えている地域課題と密接に関わって、連携事業を展開したりしています。所沢市の場合には、中核市規模のところに複数の有力な高等教育機関があるという恵まれた条件がありますから、それを活かしていくことは大切なことだと考えます。その高等教育機関のひとつである防衛医科大学校は、国の機関としての固有の使命を背負っていますが、地域での様々な医療・公衆衛生面での実践に関わっていただくことは、その高等教育機関の教育研究にとっても決して負担やマイナスだけでなく、プラスの面もあるはずで、積極的にここにしかない大学校として、協力を展開させていただければ大変ありがたいのではないかと市民の立場としては思います。

現在、大学の学長という役職を預かっていますが、大規模な大学はさまざまな部局がそれぞれに多様な地域、自治体と連携関係をもっていたりしますが、その中でも立地する自治体というのはある種別格で、やはり学生の学びの場でもあり、生活の場でもあるし、様々な形で市民の方との良好な関係があったときに、初めてそのキャンパスが盛り上がりますので、何らかの機会があれば様々な形で連携させていただきたいと考えています。

所沢市に大規模で総合的な大学が立地されているということは、そのキャンパスだけでなく、そのキャンパスを通じて全キャンパスと連携を深めていくこともできますので、所沢市の今抱えている課題のうち、この点についてはこういうテーマに関わっている教員の方がいらっしゃるのので、何らかの形で共同で調査ができないか、政策開発や実証実験に学生さんにも手伝ってもらい何かできないかというのを、市側からも積極的に提案していただければ可能なこと、あるいは発展していくことは多数あると思います。早稲田大学の所沢キャンパスとの間には、NPOを共同で立ち上げて、地域の保健、福祉あるいはスポーツを通じた市民生活の充実という長年の蓄積があると理解していますが、まだまだ可能性はあるのではないかと思います。

もう1つは市議会と高等教育機関の連携で、例えば滋賀県大津市議会がテーマに応じて立命館大学、龍谷大学、同志社大学など、滋賀県内にキャンパスを抱えている大学も含みますが、必ずしも大津市内に立地しているわけではない大学を含めて、複数の有力な大学にこのテーマであればこの

大学と協力して何かをやっていこうということを戦略的に選択して、連携協定を結ばれて、議会活動を展開されています。それが全国に対して大津市議会発として積極的に発信されています。そういう点では、所沢市議会もそういうような議会として、高等教育機関と連携して政策の調査や審査であるとか、政策開発、提言といったことにも様々できることはあるのではないかと思いますので、ぜひそういったことも議会改革のなかで高等教育機関という組織資源をどのように市議会の強化のためのツールとして活用していくかを検討していくとよいのではないかと思います。

島田委員長

所沢市議会としては早稲田大学とパートナーシップ協定を結んでおり、コロナウイルスの関係でできなくなってしまったみみ丸カフェなど学生さんにも協力していただき、今までやってきたところではあります。ただ、せっかく協定を結びましたが、もう少し踏み込んだ何かができるかはこれから検討していかないといけないと感じています。防衛医科大学校もありますので、どういう形で市議会として協力してやっていけるのか、また廣瀬委員が法政大学の総長でいらっしゃるの、先ほどの大津市議会のように市外の大学との協力というお話もありましたので、そこも研究させていただいて、市外の大学でも場面により協力できる体制作りを議会でも進めていかなければと思います。私たちは市議会なので、執行する権限は持っていないので、研究したことについては執行部に提言するなどし、そういった形でよりよい所沢市議会になるようにということを踏まえながら活

動していきたいです。

荻野副委員長

既に皆さんから私も考えていたことをおっしゃっていただいたと思うところもありますが、今回こうしたテーマをいただいて良い機会だと思います。私は扇原先生にファシリテーターをやっていただき、2017年に早稲田大学と防衛医科大学校と日本光電工業の方に来ていただき、オープンセミナーに関わらせていただきました。島田委員長からも話があったように、議員とか議会という立場は難しいと感じており、オープンセミナーでも思いましたが、議員は専門性があまりあるわけではなく、政策立案には弱い部分がありますので、1つはオープンセミナーのようなある種マッチング機能的なものを発揮する部分で動けることがあったのかなとそのときは考えました。先ほど島田委員長がおっしゃっていたように、執行権もないので議員の立場で政策を作っていくというのは難しい部分がありますが、議会のなかでは近年、委員会が中心に政策討論会とかをやっていますので、委員会が中心になってやったほうがよいのかなと考えています。特別委員会の矢作委員が市民文教常任委員長をやっていますので、教育という点ではそこで何か関わっていくことも考えられるのかなと思います。市内の教育機関でも、実際どういうことやっているのかはなかなか市民の方もわかっていないと思いますし、議員も不勉強なところがありますので、せっかくこういう機会をいただいたので、また扇原先生にご指導いただいてそういった機会を作っていければとよいと思っています。



扇原会長

他の議会改革に関する特別委員会委員の皆さんも、せつかくの意見交換の機会なのでぜひお願いします。

石原委員

審議会委員の先生方、今日はありがとうございました。連携のご議論ということで、市内の各地域で市議会議員はいろいろなボランティア活動をしていると思いますが、小手指のハナミズキ祭りでも早稲田大学のキャンパス祭実行委員のみなさんが、ごみの分別のボランティアに非常にたくさん、来ていただいて、模擬店も出店していただいている、大学の立地する地元のまちということで、市民との交流ができていて、非常にうれしいことだと思っています。学生さんにお話を聞くとほとんどが全国各地から早稲田大学に通うことで初めて所沢を知りましたという方でして、所沢市役所に進路として就職してくる学生さんで、大学の中では早稲田大学が大きい割合になっているのではないかとということで、それくらい結びつきが強くなっています。そのような形で連携なのか、個々のレベルで広がっていて、議会においてもインターンシップで学生さんを受け入れており、いろいろな作用がありますが、できましたら教育機関との連携で議会側も大学を訪問させていただいて、勉強の機会をいただけたらありがたいと思います。防衛医科大学校も身内が入院したときに防衛医大病院に行きますが、普段、どのような研究をされているのか、不勉強なところがあるので、市民にそれを問われても大事な研究をされているとしか説明ができ

ないので、もし機会をいただければ議員が見学をさせていただいて、市と市民と研究機関とのつながりを市民に説明できるような機会を頂戴できればと感じたところでございます。

川辺委員

高等学術機関の若い人たちの考え方に触れ、取り入れていくためにも連携していくことが重要であると考えますので、ぜひ前に進めていった方がよいと思います。

矢作委員

年齢的に若い方との交流が少なくなってきていて、議会でインターン生が来ますと、若者らしい柔軟な考えを持っていますし、一生懸命に取り組んでくださるので、大いに刺激を受ける場所だと思っています。現在のコロナ禍で自治体の取組に保健衛生を含め、市民生活という部分でもご助言をいただくとありがたいということが1点、あります。私は市民文教常任委員長を務めさせていただいていますが、教育の部分では、小中学校においてコロナの影響で不登校が増えている中では、その学生の交流の場があるといいと思いますし、福祉分野の高齢者の部分でも若い方々と触れ合うということは、自分の若いころを思い出すということもあって認知症予防にもよいのではということもありますので、小中高校生と高齢者の居場所みたいなものができるとういのではないかと思います。

松本委員

最近、読んでいる「ライフ・シフト」という本に教育期間は人生の準備

期間であるというメッセージがあり、その意味で学んでいく子どもたちと現役世代や高齢者との接点をどのように持っていくかが難しいと思います。私事ですが、3の付く日に地域で朝7時から朝食会を行っています。最近では高校生、大学生が参加するようになりました。我々が気付かないいろいろな意見が出まして、問題意識をもったのは、兄弟が少ない、親との会話が少ないということで、人前で話す能力とか、コミュニケーション能力がなかなか身に付けられないということで、他世代の人との交流を望んでいる若者がいるということに気がしております。

先生方に伺いたいのですが、大学で生徒との教育を進めながら、今の社会と自分たちがどういう関わりがあるのかという、現実の社会をどれだけ授業に取り入れているのかということに関心があります。私も現役時代に埼玉大学と提携して、金融、株などについて大学生と交流した機会があるのですが、学校が地域とか議員や行政との関わりをどの程度必要とされているのかについて関心があります。

角田委員

地域との関わりとなりますと、担当の科目が公衆衛生ですので地域保健や衛生行政などの講義がありまして、実習というところで外に出るのは、防衛医大の場合はなかなか厳しいのですがやっています。現実はどうなのかということを保健所実習などの機会に学生を受け入れていただくと数人ですが交流できればありがたいです。防衛医大の学生は特殊なところがありまして、入って全寮制になるので、土日は外出許可になりますが、

平日は学校施設内で暮らしています。例えば普通の大学生であれば、下宿してごみを出すのにごみの日はいつだということなるわけです。国家試験の問題で一般廃棄物の処理責任はどこかという非常に簡単な問題でも防衛医大の学生は市が収集しているといったことなど、社会生活と離れてしまっているが故に弱点となっていて、将来、自衛官になって地域に出て行って、地域の行政と関わりを持つわけなので、そのようなところを意識して教育するようにしています。

廣瀬委員

大学としては、できるだけ地域に学生を出していきたいと思っていますが、現状は感染症の影響で制約がかかって残念に思っていますけれど、社会の現実の中で自分が学んでいることがどう位置づくの、活きるのか、考え方が間違っていないか、空理空論で終わって役に立たなくはないか、といったことを実感できる場所をできるだけ豊富に体験として学生たちが得る機会を設けていきたいと思っています。大規模な大学になりますと人数も非常に多いので、立地している自治体だけということではそのニーズは満たされていきませんし、また、東京圏にある大学は関東一円から通学圏内に入ってくるということもあって、生まれ育った環境で生活しながらそのまま大規模な大学に通っている学生の割合が非常に高いです。自分が生まれ育った街の環境以外の生活体験を全く持たないまま、大学を卒業していってしまうということにもなりかねないので、できるだけ様々な地域の条件にあるところ、そして自分が生まれ育ったところとは違うタイプ

の地域での生活の実態に触れたり、政策課題のある側面に触れたりということできるだけ推奨しようと考えています。例えば、東京の大都市圏の中での実習などにはできるだけ地方出身の学生を送り出したい。逆にかなり遠隔の地域とも連携を結んでいて、例えば北海道や沖縄に学生を送ったりもしていますけど、それはできるだけ首都圏出身の学生を送ったりしています。そういう関係で例えば、首都圏の別の住宅都市でいろいろな地域課題を感じている学生を、所沢と条件は似ているけれども、だいぶ違う対応をしているらしいというようなことも分かったうえで所沢で実習してみようといったマッチングはいつも心がけているところです。ぜひ、そういう点では所沢でもそういう機会が設定されているのは大変ありがたいと大学としては感じているところです。

扇原会長

早稲田大学でも所沢市全体をキャンパスとして捉えて、市内全域で学生たちを受け入れていただいております。具体的には、教育実習や臨床心理や社会福祉士関連の実習等でお世話になっておりますが、さらにもう一歩進んで地域課題の解決を目的として、学生が市民や議員のみなさん、企業の方々と一緒に議論できるリビングラボを含む、様々な地域の課題解決を可能とする所沢モデルのようなものができることを期待しています。

長くなりましたが、意見交換はここまでとし、議題(1)に戻りたいと思います。

( 1 ) 答申書の提出について

扇原会長

答申書(案)のご用意ができましたので、各委員のみなさま再度、お目通しいただければと思います。

(委員は、最終案を確認。)

それでは、ご確認いただきましたので、ただいまお示ししております案をもって答申とすることよろしいですか。

(委員異議なし)

それでは、大館議長に答申書をお渡ししたいと思います。

(扇原会長が別紙の答申書を読み上げ、大館議長へ手渡す。)

(答申書は、別添のとおり。)

大館議長

ただいま答申書をいただきました。市議会としてしっかりと受け止め、このあと、いただいた答申を踏まえ、議会基本条例の改正に向けて最終協議を行ってまいります。本日は誠にありがとうございました。

扇原会長

それでは、答申の内容につきましては、議会内で共有いただきまして、議会改革に関する特別委員会でさらに議論を深めていただければと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

( 3 ) その他

扇原会長

事務局から何かありますか。

轟議会事務局

特にございません。

参事

扇原会長

ほかに委員の方から、何かありますか。

廣瀬委員

この件の延長になりますが、2月5日に行われる予定をご紹介いただければよいかと思います。

島田委員長

2月5日の午後1時から市民説明会を行う予定であります。当日、その市民説明会のあとに政策討論会も実施されます。コロナの状況がわかりませんので、現状は、政策討論会のやり方に準ずるという形で実施する予定でありますが、場合によってはオンラインでの開催もあり得るということで、調整をしながら市民説明会を開催する予定です。

また、パブリックコメントも実施する予定でありまして、スケジュールとしましては正式に委員会の案の形になりましたら、次の3月定例会のおそらく最終日当たりになるかと思いますが、委員会提出議案の形で改正案を提出したいという流れでございます。

扇原会長

市民説明会の会場はどちらになりますか。

島田委員長

こちらの全員協議会室で予定しております。

扇原会長

ほかにいかがでしょうか。なければ本日の議事を終了し、お返ししたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

#### 4 閉会

石本副議長

扇原会長、委員のみなさま、どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして第2回政策研究審議会を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。

閉 会（午前10時23分）